

新本堂にて 大施餓鬼会 法要

七月二十一日(月)

青山山

発行/梅窓院 編集/青山文化村
発行日/平成15年9月1日
発行人/中島 真成
住所/〒107-0062東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8107
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp

題字/浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆猊下



七月二十一日
奉修 大施餓鬼会法要
於 梅窓院



梅窓院大施餓鬼会法要

新しくなった本堂を一目見ようと、小雨にも関わらず例年以上のお檀家様が来寺されました。法要には雅楽やご詠歌が盛り込まれ、荘厳な雰囲気の中で執り行われました。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 **中島真成**

新しい梅窓院が出来上がりました。念願の本堂復興です。もう、ご覧になられた方も少なくありませんが、新しい時代の新しい伽藍に驚かれたかもしれません。新生梅窓院は地下二階地上五階、延べ床面積が三千余坪、施工に関わった人数は延べで一万人を超える大事業となりました。

机上の設計図と違い、実際にたたずんでみると思った以上の伽藍で、いろいろな形で活用していただける空間になったと思います。皆様もどうぞご利用下さい。さて、今回のこの大事業の施主として感じたことを、少しお伝えしたいと思います。

三千坪という建物の隅々までを住職という立場で見えてきたわけですが、なかなか計算通りという訳にはいかないものです。どんな事でもそうでしょうが、実際に物事を進める中でいろいろな難しい事が出てくるものです。

そうした時にありがたいのが、多くの専門家のアドバイスです。仏教では「おかげ」という言葉を大切にしますが、まさに多くの人の「おかげ」の結晶が新生梅窓院の原動力でした。



竣工式で挨拶をする中島住職。



第二回 (四回連載)

生きることと食べること 大切なこと「もつたいたい」

長野市十念寺 副住職

袖山榮輝 上人

供会「なむなむキャンプ」を開催している。対象は小学三年生から六年生。会場は長野市の善光寺大本願で、宿泊と食事は宿坊を利用している。絶好の環境であることには間違いないのだが、今、気になることが一つある。それは子供たちの食事。十年前の子供たちはいったいどこまで食べるのか、心配になるほど旺盛な食欲だった。それが今、ご飯一膳食べるのも精一杯。食べる量が「圧倒的」に少ない

確か小学校に上がる前だったと思う。隣町にある遠縁の家に行き、夕飯をご馳走になる段取りになった。出てきたのは大皿に山盛りのフライ。当時、我が家ではトンカツが最高のご馳走。けれども年一、二度しかお目にかかれなから姿形の記憶がない。「もしやトンカツ？」と期待を込めてかぶりつくと、これがイワシのフライ。独特の苦味に思わずフライをもとの大皿に戻ってしまった。と、

その時である。「なんてもつたいないことをする。一端、口を付けたものは最後まで全部食べなさい」と、その家の老婆からしかりつけられた。何か言い訳したように思うが、結局、半べそをかきながら、フライもご飯も全部飲み込んだ。その苦い思い出のせいか、誰であれ平気で食事を残す姿を見るのは心苦しい。

ところで、もう十三年になるが毎年夏休みの期間中に、青年僧の仲間たちと一泊の子

のである。仏教では食べることも修行と考える。一粒の米にもいのちが宿っている。そのいのちを犠牲にしなければ我が身を養うことはできない。他のいのちを頂戴している現実を直視してはじめて、修行の第一歩が踏み出せるのである。だから、犠牲となったいのちを無駄にしないよう、修行僧は食事を残さない。とはいえ、食べられる量にも個人差がある。用意された食事が多いと

思えば、箸を付ける前にお裾分けしたり、お櫃に戻したりするのである。

子供会でもそのように指導するが、最初はピンとこないらしい。いつでも好きな食べ物をつまむことができ、お腹が空いていないのに三度の食事を摂る、そんな生活なのだろうか。何となく食べて何も考えずに残しているのである。

食事修行とみれば、どれだけ食べれば食欲を鎮め、我が身を養い生かすことができるか、自分に必要な量を見極めることが大切になる。食事の量を見極めれば他のいのちを無駄にしないで済む。そう説明すると子供たちも分かってくれる。残さぬように工夫し出すのである。

生きることの基本は食べることである。食べることの基本は残さぬこと。平気で残すということは、他のいのちをないがしろにし、食欲という己の煩悩にただ付き従っているのである。反対に残さぬよう「もつたいたい」を心がければ、それが自然と仏教的な生き方になる。法然上人は「食事を摂るのは己の食欲に付き従うためではない。念仏称えるこの身を養うためである」(『十二問答』趣意)と申された。実りの秋、「もつたいたい」の精神を噛みしめたい。(浄土宗総合研究所研究員)

6月、7月の行事

盂蘭盆会法要

7月13日 一階観音堂にて



例年より多くのお檀家様にご出席頂きました。今回も詠唱教室の講員さんによる御詠歌奉納も行われました。

観音堂での竣工法要。設計を担当した
もご参列頂きました。



住職自ら本堂棟をご案内。

梅窓院
竣工式式場

梅窓院新本堂棟 竣工式

6月18日
一階観音堂にて

秋のお彼岸

秋彼岸寄席

午後一時〜 観音堂にて
落語二遊亭歌る多師匠

桂才紫さん

入場無料／全席自由



三遊亭歌る多師匠。特技は寄席の踊りに南京玉すだれ。



桂才紫さん。今年5月に二ツ目昇進した若手のホープ。

九月二十三日(火)

午後一時〜
彼岸寄席

午後二時〜
秋彼岸会法要
観音堂にて

本堂棟一階

まもなく

秋のお彼岸を迎えます。

ご家族そろって

ご先祖様をお参りしましょう。

秋彼岸会塔婆申込み

同封のはがきを使い九月十二日必着でお申込み下さい。塔婆回向料は一本七千円とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。(銀行でのお振込みは出来ません。)

◆お檀家様へお願い◆

お彼岸期間中、当院はお参りに来られる方で大変混み合います。恐れ入りますが、来寺の際は電車等、公共の交通機関をご利用頂きますよう、宜しくお願い致します。

お彼岸によせて

中国に『飲水思源』ということわざがあります。水を飲む者は、その源(苦労)を知れという意味です。もしなにもないところで、自分の力だけで水を飲もうとすれば、井戸を掘るなど大変な苦労をとまいます。つまり、水一つ取っても、その為に苦労した方々がたくさんいるということ。振る向けば、御恩を受けし人ばかり」といいますが、なかでも私達の為に特に苦労なされた方々が、ご先祖さまではないでしょうか。皆様、お彼岸、お墓参りの時期がやって参りました。(西澤)

仏教
研究所
だより

念仏と法話の会

五月二十三日(水)

法話 静岡教区 龍善寺住職

向山瑞成上人

仮本堂での最後の行事となった念仏と法話の会。次回からは本堂棟二階客殿にて行われる予定です。雰囲気も変わり、お念仏にも熱が入りそうです。

法話される向山上人。



新生梅窓院、
これからのお寺は
文化活動の
発信拠点に

檀家総代

さん

「梅窓院の中島真成住職から相談を受けたのは先代の真哉住職が亡くなられてからすぐで、まだ私が伊藤忠商事の原子力部長の頃でした。」

ぼちぼち通りにあつた駐車場の建て直しの話でしたが、私の得意分野ではなつたこともあり、代わりに人を紹介させていたのです。」

梅窓院に三人いる檀家総代の一人、さんは住職との出会いをこう振り返る。

このさんから紹介された人の縁から梅窓院本堂再興計画はいつきに具体化され、今日にいたつている。

いわば、さんは本堂復興のきっかけを作つたかげの

功労者というわけだ。

そのさんが檀家総代に就任したのは五年前だが、家と梅窓院との関係は随分昔に遡る。

「実は妻の祖父母の頃に梅窓院に入檀しています。先々の真孝先生の頃でした。祖父母は熱心な信者で、真哉住職にも気を使つていただいていたようです。」

一方さんの実家の菩提寺は秋田の曹洞宗の名刹で、戦国武将佐竹氏の菩提寺だ。兄のさんが守っているこのお墓にはちよつとしたエピソードがある。

お寺が廃仏毀釈運動で廃寺になるところ、漢学者であり秋田魁新聞社の創設時の発行人だったさんの祖父が論陣をはり、無事お寺を存続さ

せたのである。そのお礼にと、お寺側が佐竹氏墓苑の隣に加藤家の墓を建ててくれたのである。

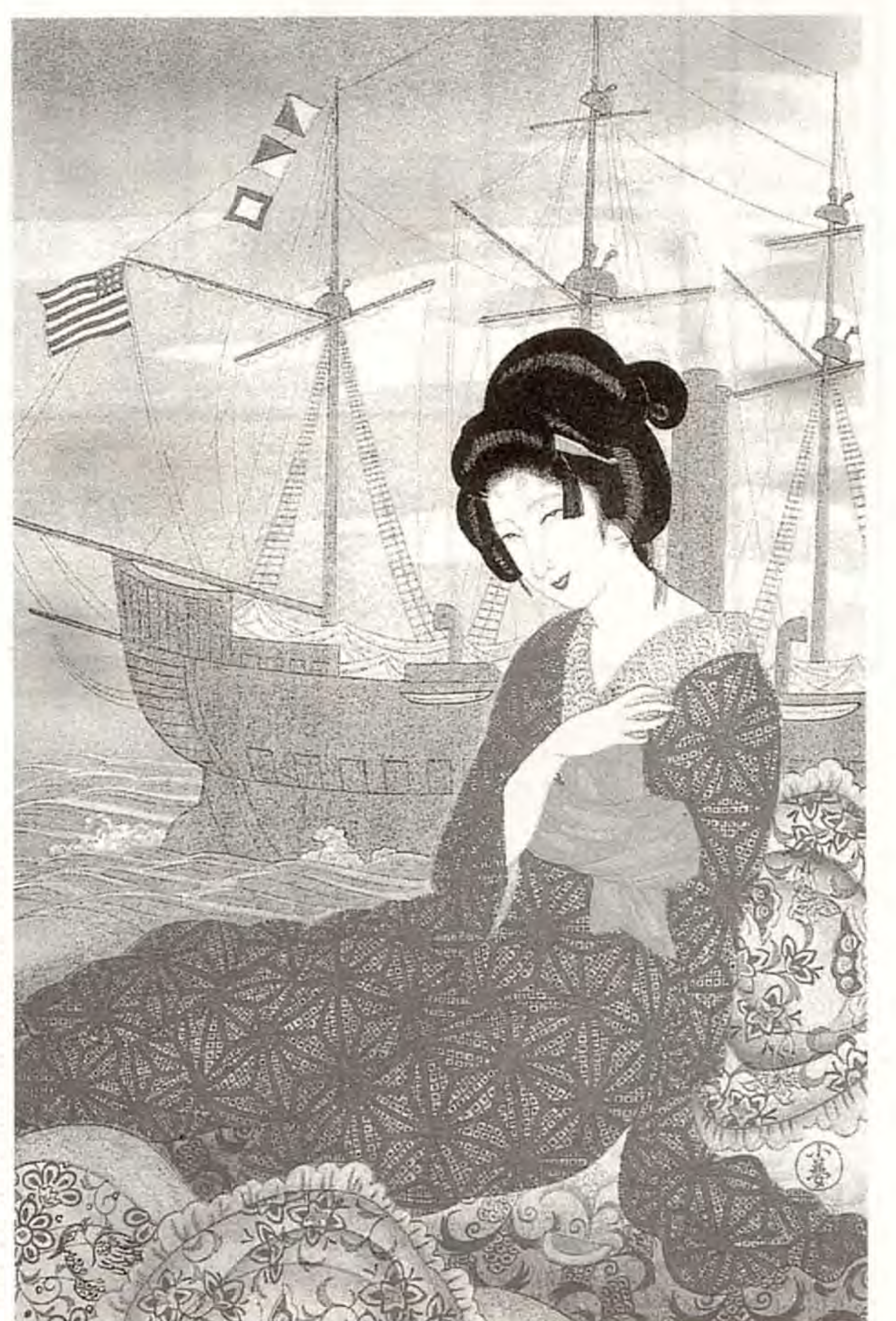
とはいえ、秋田は遠い。しかも父は妻の墓を小平に建立している。その父も今は母と一緒に小平に眠っているが、こうなると、池袋に住む兄、広尾に住むさんともに秋田のお寺にまでは足を伸ばしにくい。田舎に墓を持ちながら上京した人たちの多くが、お参りしにくい墓の移転に悩んでいるが、家も同じ悩みを抱えているのである。

さて、いまお父さんの話が出たが、父は雅号を橘小夢という画家だった。十六歳の時に郷里秋田から東京へ。黒田清輝画伯などに学び、妻ときよに支えられながら画家としての道を歩む。

戦前には発禁処分にもあい、また十年前の回顧展にも多くの鑑賞者が訪れた。

そんな父の作品集の出版を考えているさんは今年で七十二歳になるが、今も原子力に関わる会社を自分で経営している。

東大を出て伊藤忠商事に就職したのが昭和三十年。以来、日本の経済成長の中で仕事に邁進し、五十五歳で関連会社に移つた。そして八年後の六十三歳で独立、会社を設立し、現在に至っている。



父、橘小夢は八十有余の作品を残した。右は「唐人お吉」。

中学、高校時代から英語に興味を持ち、無料で学べる教会で英語を学んだ。そしてその英語を使える仕事に就く夢を商社就職でかなえる。

「振り返れば三十五歳から原子力に関わり続けてきましたが、仕事では運がよかったですね。時代に恵まれたこともあり、まあ、客観的に見れば中ぐらいの出世ということでしょうが、よい加減だったと思います。」

まだまだ、ビジネスシーンで活躍されるさんだが、新しく生まれ変わった梅窓院へは、総代としてこんな要望をもっている。

「伊藤忠でも会社のホールで音楽会などを開いていますが、梅窓院も新しい施設を充分活用して色々な文化活動をして欲しいですね。」

まだ、仕事に追われる身ですが、総代としてできるだけ参加したいと思っています。」

泉岳寺

今回訪ねた三ヶ寺の最寄駅、都営浅草線泉岳寺駅の周辺には、古くから多くのお寺が建ち並ぶ寺町です。

その中で立寄りたのは駅名にもなっている泉岳寺です。泉岳寺は忠臣蔵で有名な赤穂浪士四十七士の墓所がある事で知られています。

境内には赤穂義士記念館も併設されており、四十七士に関する貴重な遺品なども展示されています。

お寺に続く参道沿いにはおみやげ屋も建ち並び、散策を楽しませてくれます。



都営浅草線・泉岳寺駅下車A3出口



第二番

周光山 濟海寺
長寿院 泉所本尊 亀塚正観世音菩薩

元和七年（一六二一）草創で、このお寺は『更級日記』の伝説の寺と由来される竹柴寺の跡とされている。竹柴の衛士の宅地にあつた酒壺の下に住み着いた亀を、その土地の人が霊亀として敬ったのが亀塚観音、霊亀の上に立つておられるめずらしい観音様です。

寛文年間創立、ここに奉られていた観音様は二躰。享保年間中には江戸三十三観音参り札所として大賑わい、出開帳等も行われた。両観音像とも秘仏像として厨子内にあり、墓地の横には二十数躰の観音仏像がびっしりと立ち並び、その様は昔の賑わいを偲ぶことができます。



第二五番

三田山 魚籃寺
札所本尊 魚籃観世音菩薩



中国、唐の金沙羅という仏教信仰の全くなかった地方に美しい一人の乙女が現れ、竹籠に魚を入れて売り歩いている姿で仏の経を弘められ、その姿を写し奉ったのが魚籃観音さまです。木像の身長は六寸（十八センチ）あまりの小さな立像です。

第三一番 未	第二八番 未	第二七番 道往寺	第二六番 濟海寺	第二五番 魚籃寺	第一番 浅草寺	第二番 清水寺	第三番 大観音
第三二番 未	第二九番 未				第四番 回向院	第五番 大安楽寺	第六番 清水観音堂
第三三番 未	第三十番 未				第七番 心城院	第八番 清林寺	第九番 定泉寺

江戸三十三観音御朱印

読者の広場

祖師堂の貸出しはしているのですか？
(渋谷区Tさん)

祖師堂はお檀家の皆さまが優先的に使用して頂ける施設になっています。幅広い文化活動の場としてぜひご活用下さい。

現在、講演会やピアノ演奏会等での使用お問合せを頂いております。他にも演劇やダンスの稽古場としての使用法もごさいいます。

ぜひ一度、お問合せ頂きたいと思っております。

《設備》
・最大三百席（稼働型）
・照明・音響有

・マイク有

・出演者控室（二室）

・給湯室・シャワー室有

《お問合せ》
梅窓院 青山文化村

Tel 03-3404-8447

Fax 03-3404-8107

「読者の広場」では皆さまからのお便りを大募集しております。ご意見やご質問、広報誌「青山」へのご感想など、ぜひお聞かせ下さい。

〒107-0061

港区南青山二-26-118

梅窓院「青山」編集部宛

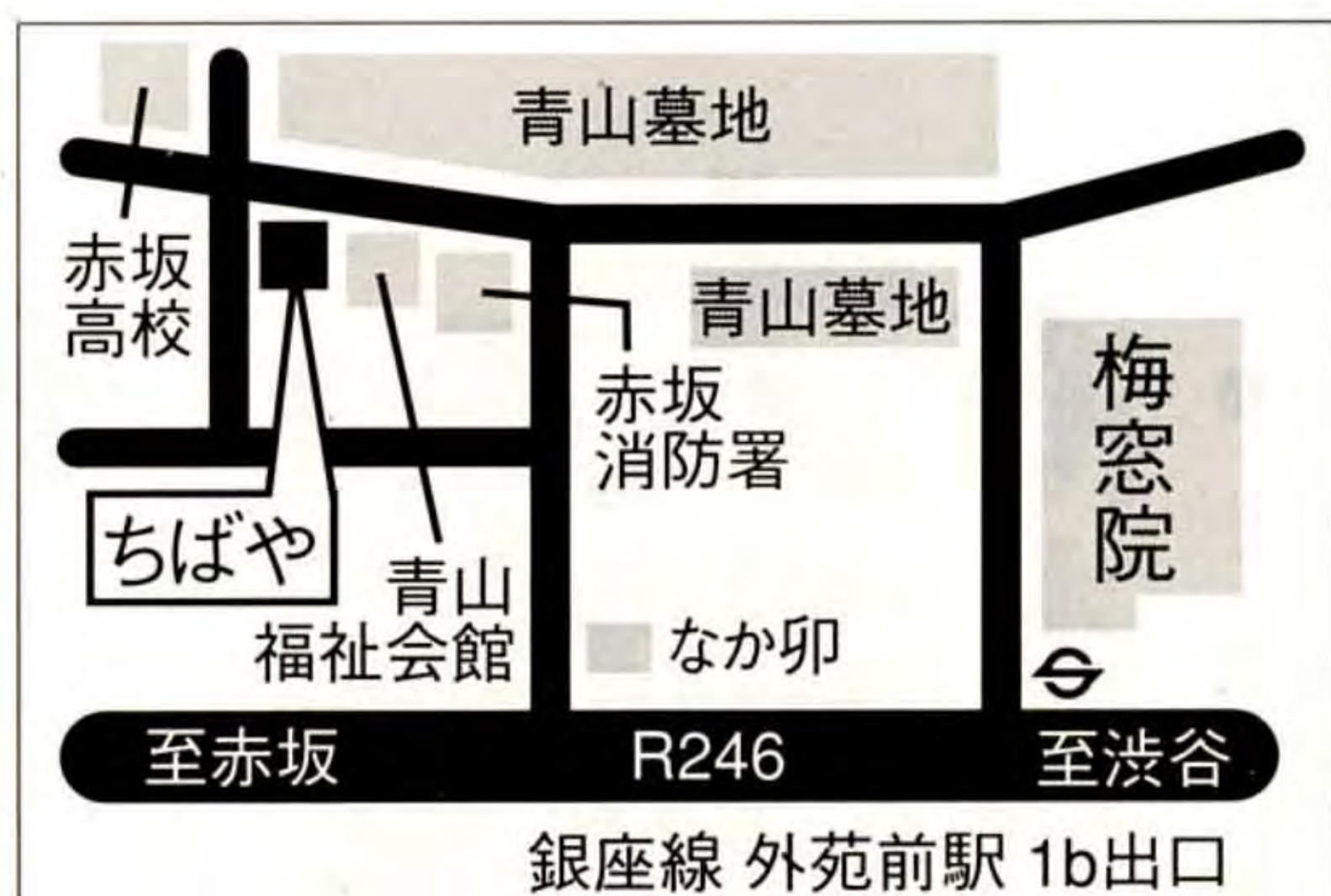
外苑前

ちばや

青山墓地の前にひっそり佇む洋風の一軒家に、知るひとぞ知る隠れ家カフェ。

明治十年頃からお墓参りの人を対象に墓地茶屋として始め、若い人むけにとお茶を振る舞っているうちに今のスタイルになったとか。

お薦めはあつさり味のスープにたっぷりチーズがとろけ



TEL 03-3401-3554
 港区南青山2-16-4
 (梅窓院から徒歩5分)
 営業時間/12時~14時頃
 (売り切れ次第終了)
 年中無休
 土日祝日はお墓参りの人優先



る「ロールキャベツ」。いつの間にかお客さんの間でお薦めになっていったという。

お墓参りの後に緑と季節の花々に囲まれた、心安らぐ場所。家庭的なランチはいかがでしょうか。

メニュー・ロールキャベツ

・石焼ビビンバ

・特製ハンバーグ

・冷麺

・焼肉としそごはん

全品1,000円

食後に限りデザート100円

飲み物はご自由に

青山俳壇

選者・『ウエップ俳句通信』編集長 大崎紀夫

茄子／かぶとむし

◎特選

海暮れて紫紺ふかめし茄子畑

(評) 日の暮れの海と畑の微妙な色の変化をうまくとらえた佳句です。

◎佳作

かぶと虫孫よりはしやぐ祖父の声

割箸の足をふんばる茄子の馬

かぶとむし眼裏にふと幼き日

漬茄子の紫の色皿の上

陽の当たる向きを変えたる鉢の茄子

椀がれゐるときに鋭き茄子の刺

◎選者詠

ひとり飲む茄子のしぎ焼き肴とし

へんポイントアドバイス

傍題を楽しもう

歳時記を開くと、季語に伴って複数の単語が載っている事

があります。

例えば「こおろぎ」―「ちちろ虫」。

「雷」―「はた神」「いかづち」等です。

同じ意味を表す場合は、言葉を変えて詠む事も可能です。

大崎紀夫

投句募集

次回のテーマは「秋の季語」。秋の季語を使って自由に詠んでください。10月末を締切、新年1月発送の『新年号』にて発表いたします。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。お待ちしております。

※港区南青山2-26-38

梅窓院

「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集
青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡ください。
※ウエップ編集室
電話〇三(五三六八)一八七〇

食は命なり

第十二回

食養研究家
武鈴子

「菊花」で
長寿を願う

九月九日は五節句の一つ「重陽の節句」。重陽は、中国では奇数は陰陽の陽数で吉とされ、九はその陽数が最も極まった数。九月九日はそのおめでたい陽数が重なった日。また、「菊の節句」ともいい、古くからこの日は長寿を願って菊花酒を飲んだ。

旧暦の九月九日頃と言えは農繁期の忙しい時期。しかも季節の変わり目で気候は不順。体調をくずしやすく、病気にかかりやすい時期でもある。重陽節の習慣には健康と長寿の意味も込められている。

菊花は、目の疲れ・充血を消し、血圧を下げ、めまいや耳鳴りを治す。また解毒作用があり、肝臓を健やかにする効果がある。食事のたびに菊花のお茶を飲む中国人の食生活にとって、菊はなくてはならないものの一つである。日本では山形、青森の食用菊が有名である。酢を加えた湯で花卉をさつとゆで、ごはんや料理にあしらうと、見た目にも美しく、食欲をそそり、疲れが癒される。眼精疲労には、菊花10~15花ぐらいを三杯酢であえて食べると疲れが癒される。

菊ご飯

- ①米2カップは炊く30分前に洗ってザルに上げておく。
- ②炊飯器に米と昆布だし2・2カップ、酒大さじ2、塩小さじ1を加えて普通に炊く。
- ③食用菊(10~15花)は、花卉をむしりとり、熱湯に少量の酢を加えた中で3分ぐらいゆで、すぐ水にとって、水気を切りかたく絞る。
- ④ご飯が炊けたら、③の菊をほぐして加え10~15分むらして全体に混ぜ合わせる。

・ 行 ・ 事 ・ 予 ・ 定 ・



◆梅窓院だより◆

墓参に来寺される 皆さまへ

梅窓院にお越しの際は、受付にお立ち寄り下さい。新しくなった本堂棟へのご案内はこちらで行っております。

墓苑内の移設工事もほぼ終了致しました。足元には照明もつき、夕刻からでも安心してお参り頂けます。

また九月中旬までには、墓苑内に管理棟が建つ予定です。こちらに休憩所と御手洗いが設けられ、墓参に来寺された皆さまにご利用頂けます。

受付へお立寄り下さい。



墓地管理棟（工事中）。



郡上おどり

九月十三日(土)・十四日(日)
午後五時頃より
梅窓院境内

秋彼岸会法要

九月二十三日(火)
午後一時より 彼岸寄席
午後二時より 秋彼岸会法要
本堂棟 一階 観音堂

第三十回 念仏と法話の会

十月七日(火)
午後一時より 一階 観音堂
法話 長野教区 寛慶寺住職
水科 善隆 上人

十夜法要

十一月十五日(土)
午後四時より
本堂棟 地下二階 祖師堂

九・一一平和フェスタ & 万燈法要

平和フェスタ
九月六日(土)
午前十一時〜午後六時
本堂棟 地下二階 祖師堂

長倉洋海写真展

九月六日(土)〜七日(日)
祖師堂 エントランス

万燈法要

九月十一日(木)
午後七時〜午後十時
(財)全国青少年教化協議会
TEL〇三(三五四一)六七二五

浄土宗宗祖法然上人 八〇〇年遠忌記念御巡教

十一月十九日(水)
午後一時より
本堂棟 地下二階 祖師堂
法話/大本山金戒光明寺
御法主 坪井俊映 台下

六地藏寄進

この度、お檀家の様より六地藏をご寄進頂きました。元々お子様の供養の為に六地藏を彫り始めたのですが、二体目を彫り終えた頃、ご自身が体調を崩されご危篤状態に。そんな時、「二人では淋しいよ。早く元気になって四人を彫って欲しいよ」というお地蔵さまの声が聞こえ、意識が戻られたそうです。無事退院され、六体を彫り上げられた六地藏。当院にて大切に供奉りさせて頂きます。



さん寄贈の六地藏。